# 1 はじめに

# 1-1 住宅マスタープランの目的・構成

### (1)計画の目的

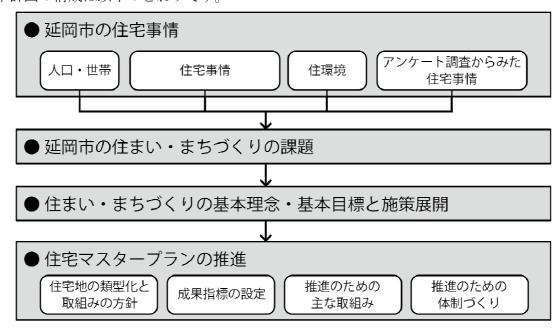
延岡市では、本格的な人口・世帯減少社会の到来や深刻化する地球環境問題等を踏まえ、本 市の現状と課題の分析をもとに平成20年3月に住宅マスタープラン(計画期間 平成20年度か ら平成29年度)を策定し、自然や歴史・文化と共生し、快適で安全・安心な暮らしを実感でき る、だれもが住みたくなる居住環境づくりに向けた施策を展開してきました。

計画期間の概ね中間年である現在のわが国の住宅を取り巻く状況をみると、高齢者や高齢者 世帯の増加、住宅の耐震性能や環境性能の改善・向上が進んでいないこと、中古住宅の流通が 不十分であることなどが指摘されています。また、平成23年3月11日に東日本大震災が発生し、 住宅や市街地に甚大な被害を及ぼしたことから、防災・減災社会の構築に対する関心が高まっています。

本市でも、特に後期高齢者が増加していること、また、東南海・南海地震との連動も想定される日向灘地震の発生も懸念されることなど、対応を強化すべき課題が生じていることから、 平成20年3月策定の住宅マスタープランを基本としながら必要な見直しを行いました。

### (2)計画の構成

本計画の構成は以下のとおりです。



# (3)計画の期間

今回の見直しにより、延岡市住宅マスタープランは、平成25年度から平成34年度までの10年間を計画期間とし、社会経済情勢の変化に応じて適宜見直しを行います。

## 1-2 延岡市の概要

### (1)沿革

延岡地方は、江戸時代に城下町として栄え、明治22年(1889年)には、町村制の実施により延岡町制が敷かれました。大正12年(1923年)、日豊本線の開通によって県北物産の集散地としての経済的地位を確立するとともに、同年、旭化成(株)の前身である日本窒素肥料(株)延岡工場の建設により、東九州屈指の工業都市として第一歩を踏み出しました。

昭和5年に延岡町、岡富村、恒富村の3町村合併で「延岡町」となり、同8年2月11日に市制が施行され「延岡市」が誕生しました。その後、同11年には東海・伊形両村と、同30年には南方・南浦両村と合併し市域を拡大しました。さらに、平成18年2月には北方・北浦両町と、平成19年3月には北川町と合併し、広大な市域を有するまちとなりました。

### (2)位置

本市は、東九州地域の宮崎県北部に位置し、東は日向灘に面し、西は西臼杵郡日之影町、南は東臼杵郡門川町、北は大分県佐伯市に隣接する、東西約50km、南北約33km、総面積867.96km。という、九州で2番目に広い面積を持つ地域です。

### (3)自然

本市周辺の地勢は、東の海岸線は山地が海に迫るリアス式海岸を形成し、市の西方から北方にかけては、九州の脊梁を成す九州山地が県境に横たわっています。

市域を貫流する主要な河川は、九州山地に源を発して東流する五ヶ瀬川、大崩山を源とする祝子川、大分県から南流する北川があり、河口で合流し日向灘へと注いでいます。

気候は温暖多雨の南海型に属し、黒潮の影響により冬は暖かく、年間の平均気温は16℃前後で、平地部では年間を通してほとんど降雪はみられません。また、年間降水量は2,300mmを超え平均湿度も70%前後と多雨多湿にありますが、冬季でも日照時間が長いことから年間日照時間は2,045時間(平成23年 気象庁)となっています。

